

第3学年 体育科学習指導案

令和3年11月19日 金曜日 5校時

第3学年3組(男子17名、女子15名)

場所 体育館

指導者(T1) 田爪 鉄平

指導者(T2) 高見 謙信

1 単元名 ゲーム(ネット型ゲーム:ソフトバレーボールを基にした易しいゲーム)

2 単元の目標

- (1) ネット型ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをすることができるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えるようにすることができるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 運動に進んで取り組み、規則を守り誰とでも仲良く運動をしたり、勝敗を受け入れたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

中学年のゲームは、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」及び「ベースボール型ゲーム」で構成され、主として、規則を工夫したり作戦を選んだり、集団対集団で友達と力を合わせて競い合ったりする楽しさや喜びに触れることができる運動である。低学年のゲームを踏まえ、中学年では、ゲームの楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによって、易しいゲームをすることができるようにし、高学年のボール運動の学習につなげていくことが求められる。また、運動を楽しく行うために、自己の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、規則を守り誰とでも仲よく運動をしたり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることなどをできるようにすることが大切である。

特に「ネット型ゲーム」は、その行い方を知るとともに、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動するなどのボールを持たないときの動きによって、軽量のボールを片手、両手もしくは用具を使って、自陣の味方にパスをしたり、相手コートに返球したり、弾むボールを床や地面に打ちつけて相手に返球したりして、ラリーの続く易しいゲームをすることが求められる。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本学級（男子17名、女子15名）は、明るく素直で、昼休みに外遊びを好む児童が多くいる。体育の授業において、2年生までは苦手な運動があると消極的になる児童も見られたが、3年生になってからは苦手としている運動に対しても、諦めずに何度も練習に取り組んだり、友達同士でアドバイスをし合ったりする姿が見られるようになった。特に、1学期に行ったマット運動では、ポイントを理解し、様々な技ができるようになったり、友達に的確なアドバイスをしたりする姿が見られた。できるようになってきたことが増えてきたことで、体育の学習に意欲的に取り組む児童が増えてきている。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、1学期に実施したマット運動の学習において、学習指導要領に明記されている技のポイントを理解し、技の習得に努めてきた。なかなか定着できない児童もいたが、繰り返し練習したり、児童に合った場を準備したりすることで技能も高まってきた。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、友達の動きを見て、アドバイスをする活動に取り組んできた。運動のポイントを指導することで、何を伝えればよいのかが分かるようになってきている。特にマット運動では、技を終えた児童は必ずアドバイスをする側に回るパターンを作ったことで、全員が的確なアドバイスができるようになってきている。

「学びに向かう力、人間性等」に関しては、体育の学習に進んで取り組む児童が多く、よいところを褒め合ったり、安全に気を付けて、仲間と準備や後片付けを素早くしたりすることができている。

(3) 体力の状況

本学級（男子17名、女子15名）における体力テストの結果は以下の通りである。

	男子					女子				
段階	A	B	C	D	E	A	B	C	D	E
人数	3	2	8	4	0	1	5	6	2	1
%	18%	12%	47%	23%	0%	7%	33%	40%	13%	7%

体力テストにおける総合評価の割合は、男女合計でA・B段階が34%、C段階が44%、D・E段階が22%という結果で、D・E段階の児童に対して、より一層の体力の向上が必要だと考えている。そのために、体育の授業では、運動のポイントを知り、運動の苦手な児童が意欲的に運動に取り組める場を準備したり、運動量も増やしたりしながら授業に取り組んできた。昼休みは、学級担任が積極的に働きかけている為、多くの児童が外で遊んでおり、遊びながら体力を高めたり、体の動かし方を理解したりしている。

5 学習を進めるにあたって

本単元の指導にあたっては、ゲームの特性を十分に理解させるために、ソフトバレーボールのルールを簡易化したゲームを段階的に行い、ラリーの続くゲームの楽しさを十分に味わわせたい。また、チームで作戦を考えたり、ゲームを振り返ったりする活動を行うことで、チームの課題を明確にし、勝敗だけでなく、チーム力の向上で喜びを感じられるようにさせたい。

オリエンテーションでは、ソフトバレーボールの簡単なルールの説明を行い、どのようなゲームなのか見通しをもたせる。児童が必ずボールに触れる機会をつくるために1グループを3～4人とし、10グループ編成とする。単元のゴールイメージを、「ラリーの続く白熱したソフトバレーボール大会を行おう。」とし、大会に向けてどのような練習に取り組んでいくのかを伝える。そして、基本練習を紹介し、全員で取り組ませる。最後に、ソフトバレーボールは、個人プレイだけではなく、チームプレイでもあるため、協力することや勝敗を受け入れることの大切さを伝え、全員が楽しく意欲的に活動できるようにさせる。

「ねらい1」では、「アタック」「レシーブ」「サーブ」「トス」など基礎的な技能を高めることをねらいとし、動きのポイントを確認しながら学習を進める。その際、「レシーブ」「パス」をする際は、ボールの落下点に素早く入るという意識をもたせる。ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることが苦手な児童には、プレイできるバウンド数を多くしたり、飛んできたボールをキャッチしてラリーを継続したりするなどの配慮をする。また、個人やチームの課題を見付け、解決する方法を考えさせながら学習を進めていくため、毎時間ゲームを設定する。ゲームの中で、ラリーを継続させるためのルールを子どもたちと共に考え、全員が楽しめる易しいルールに変えていく。このような活動を繰り返し行うことで、チームや個人の課題解決を目指し、ねらい2につなげていけるようにする。

「ねらい2」では、ラリーが続く白熱したソフトバレーボール大会を行う。作戦ボードを活用し、操作しながら考えたことを伝え合うことで、勝敗だけではなく、チーム力が高まってきたことに喜びを感じられるようにしたい。また、作戦が成功したときに褒めたり、友達の動きの良さを褒め合ったりする場面をつくり、意欲を高めていきたい。

本時の授業に当たっては、まず準備運動及び基本練習をチームで行う。次に、本時の授業のねらいを確認し、レシーブの時にボールの落下点に移動する練習を全員で行う。その際、パスを出す相手の方に体を向けることを意識させる。その後、1回目のゲーム（3対3）を行う。振り返りの中で、チームの課題を考え、課題を解決するための動きまたは作戦を話し合う。その後、2回目のゲーム（3対3）を行い、課題解決が図れたかを確認する。

授業の最後には学習の振り返りを行う。学習カードに、チームや個人の課題を書かせ、次の授業に活かしていきたい。また、よい動きをしていたチームや個人を称賛することで、次時も意欲的に活動できるようにつなげていきたい。

6 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとまりごとの評価規準	<p>次の運動の行い方を知っているとともに、易しいゲームをしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ネット型ゲームでは、基本的なボール操作とボールを操作できる位置に体を移動する動きによって、易しいゲームをしている。 	<p>規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりしているとともに、考えたことを友達に伝えている。</p>	<p>運動に進んで取り組もうとし、規則を守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、勝敗を受け入れようとしていたり、友達の考えを認めようとしていたり、場や用具の安全に気を付けたりしている。</p>
単元の評価規準	<p>① ソフトバレーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。</p> <p>② 相手コートから飛んできたボールを片手、両手を使って味方に繋いだり、相手コートに返球したりすることができる。</p> <p>③ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。</p>	<p>① ラリーが続きやすいように、触球回数やバウンドありなどの規則を選んでいる。</p> <p>② ラリーを長く続けるための作戦を選んでいる。</p> <p>③ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりするための工夫を、動作や言葉、絵図などを使って、友達に伝えている。</p>	<p>① ゲームに進んで取り組もうとしている。</p> <p>② 規則を守り、誰とでも仲良くしようとしている。</p> <p>③ 用具などの準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。</p> <p>④ ゲームの勝敗を受け入れようとしている。</p> <p>⑤ 友達の考えを認めようとしている。</p> <p>⑥ 場や用具の安全を確かめている。</p>

8 本時の学習(4/6時間)

(1) 本時の目標

- ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができるようにする。(知識及び技能)

(2) 本時の評価項目

- ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。(知識・技能)

9 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点	○：評価項目 (評価方法) 【Aの例】	「努力を要する」と判断される児童への手立て
はじめ 7	1 整列、挨拶をする。 2 準備運動及び基本練習を行う。	・ 基本練習を行うことで、基礎的な動きを高めさせる。		
なか 33	3 本時の学習内容とねらいを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動できるようになる。</div> 4 本時の学習内容に沿った練習を行う。 ・ チームで	・ 手前、奥などに新聞紙のボールを投げさせることで、ボールの落下点に素早く入る動きを身に付けさせる。 ○ 腰を落とした準備姿勢 ○ ボールから目を離さない ○ ボールの方向に体を向ける ・ 新聞紙のボールから試合で使用するボールに変更させ練習させることで、パスをする相手に体を向ける動きを身に付けさせたり、ボール操作に慣れさせたりする。	○ ボールの方向に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に移動したりすることができる。 (観察・ワークシート)	・ ボールの落下点に移動できない児童には、近くでボールを投げやり、前後左右に動いて体の正面でキャッチする練習をさせる。

	<p>5 3対3のゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目 (試合時間は4分) ・ 中間の振り返り ・ 2回目 (試合時間は4分) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲームに入る前に作戦タイムを設け、ポジションや作戦の確認を行わせる。 ・ ゲームに入る前に円陣を組ませ、ゲームに臨む意欲を高めさせる。 ・ 教師がタブレットで試合の様子を撮影し、よい動きがあれば紹介する。 ・ 振り返りでチームの課題を確認させ、2回目のゲームに臨ませる。 	<p>【Aの例】</p> <p>○ ボールの方向に常に体を向けたり、ボールの落下点やボールを操作しやすい位置に素早く滑らかな動きで移動したりすることができる。</p>	
<p>ま と め 5</p>	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードに記入し、振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>○○すると、落下点にスムーズに移動することができた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ よい動きをしていたチームや個人を称賛することで、次時も意欲的に活動できるようにさせる。 		